

2025 年度（2026 年 3 月期）第 2 四半期決算説明会における質疑応答

日	時	2025 年 11 月 14 日（金） 14：00 ～ 15：00
形	式	日本橋本社での対面と Web のハイブリッド形式
説	明	取締役副社長執行役員 CFO
者		副社長執行役員 CSO
		酒入 和男
		多和 淳也

【2025 年度第 2 四半期実績】

質問	回答
投下資本が大きい分だけ資本効率性が低く見える。この点、現在の経営陣として課題認識をどのように考えているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先行投資の積み増しによって当初計画より投資キャッシュ・フローが多く出ており、そのリターンが利益に結び付くのは少し先になるといった背景がある。 ・ 経営陣としては常に課題認識を持っており、北米 IPP 資産の売却等、プロジェクトの価値を高め売却する戦略の実行などの諸施策を積み上げ、資本効率向上に努めて参る。
LNG 調達に関して「全日本平均」（JLC）と比較し、優位なポジションを目指していくのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単年度の JLC 比較だけで一喜一憂するよりも、中長期の調達ポートフォリオ、affordable な価格で電気を届けるという使命も踏まえて評価をするべきと考えている。日本全体の需給調整を果たす役割を担っている点を考慮する必要もあると考えている。

【2025 年度以降の見通し】

質問	回答
2025 年度通期見通しセグメントの内訳について、燃料事業を引き上げた背景は。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今期は期初よりフリーポートの稼働率が高く、下期にかけても利益の積み増しが見通せると想定し、燃料事業の通期見通しを 200 億円引き上げた。
国内火力セグメントは、23 年度以降一過性要因で毎年収益が下振れしている印象がある。今後の下振れリスクをどう見ているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一過性要因が今後もう起こらないかどうかはお答えしづらい。再生可能エネルギーが拡大することによって、火力発電の稼働調整が以前より増えている事情が出てきている。設備保守・運転管理の対策を進めており、トラブルが無い前提で下期の計画を立てている。
来期（2026 年度）の見通しを現時点でどの程度描けているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現時点では 26 年度の具体的な収益目標をお示しするのは控えたい。見通しが固まった時点でしっかりお示ししたい。
2035 年の純利益 3,500 億円目標達成に至るまでの道筋をどう描いているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収益の道筋は、燃料費や一過性要因で変動しやすく、毎年一定の安定成長は現実的には難しい。実際には、投資・回収で利益が増える局面、外部環境で上下する局面がある。しかし、全体としては階段を上るように着実に 3,500 億円へ向かうイメージで進めていきたい。

【成長戦略の進捗】

質問	回答
資本増強に関する見解を伺いたい。	<ul style="list-style-type: none"> 2035 年に向けての 5 兆円の投資計画において、営業キャッシュ・フローで賄える想定をしているが、信用格付維持の観点より、バランスシートの資本を強化するため、増資は必要という認識。ただし、ROE が下がるような形は避けなければならない。
2026 年度以降の PPA についての状況は。	<ul style="list-style-type: none"> 内外無差別に電力卸売を行う中、目標としていた水準での販売を達成できたと認識。
米国シェールガス開発・生産への参画を発表したが、投資の目的（収益貢献・リスクヘッジ）について教えてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> 北米のヘンリーハブ連動の LNG 調達コストが上昇する局面を見越したナチュラルヘッジ機能を踏まえ、意思決定している。 今回の投資対象は、すでにシェールガスが出てきているアセットであり、オペレーションチームも引き続き働いてもらう仕組みを作っているため、リスクは比較的低い。
JERA Nex bp が発足したが、これまでの進捗に対する評価と今後の展望、国内洋上風力事業は国内案件として JERA が主導するのか。	<ul style="list-style-type: none"> JERA Nex bp 発足から、まだ 3 カ月強の段階であるため、評価を下すには時期尚早。いきなり劇的に変わるというよりは、徐々に力を発揮していきたいと考えている。 国内洋上風力については、Nex bp の下に「JERA NEX bp Japan」を設立し、当社の国内チームが地域対応・案件推進を担い、グローバルの Nex bp 側のラインでグローバルヘッドと相談しながら共同運営していく形。
JERA Cross に対する経営陣の期待値を教えてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> JERA Cross は顧客のエナジートランジション戦略に対するコンサルティング機能と、エネルギーマネジメントサービスを 1 社で提供することを狙った会社。将来的には、当社グリーン電源の販売チャネル拡大と、顧客の脱炭素支援の中核的なプラットフォームとして位置付けており、重要視している。
小売事業者の供給確保義務や、新しい中長期取引市場について、JERA の国内発電事業へ与える影響をどのように見ているか。	<ul style="list-style-type: none"> 小売事業者の供給確保義務については、最終的には消費者の皆さまの保護につながる制度改正と評価している。 長期脱炭素電源オークション制度については、電源種ごとにリスクリワードのプロファイルが全く異なるため、電源種ごとのきめ細かな対応が必要と考えている。
GX-ETS（排出量取引制度）の LNG 火力への影響についてどのように考えるか。	<ul style="list-style-type: none"> 当社の LNG 火力は 排出原単位が比較的低く、火力内での競争力はある。ただし、2033 年以降は、火力 vs 原子力・再生可能エネルギーといった電源種間の競争が本格化するフェーズになり、競争力維持の戦略が重要である。

以 上

将来の見通しの記述について

本資料にある計画、戦略、業績予想等に関する記述は、記述した時点で当社が入手できた情報に基づいたものです。これらの予想・予測には、当社を取り巻く経済情勢、競合環境、関連法規、為替レート等不確実な要素が含まれており、これらの予想・予測を覆す潜在的なリスクが顕在化する可能性もあります。したがって、将来の実際の業績・事業環境等が本資料の記述と異なったものとなる可能性があることをご承知おきください。